

平成 25 年 5 月 9 日

各 位

雪印メグミルク株式会社
代表取締役社長 中野吉晴

平成 25 年 3 月期 決算短信発表にあたり

わが国経済は、世界経済の減速影響を受ける中、デフレ傾向の継続、個人消費の低迷など、厳しい状況が続きましたが、政権交代以降、円高是正や株価上昇が見られ、景気回復への期待感が高まりました。

食品業界においては、低価格志向が強まる一方で、原材料の高騰等の影響があり、引き続き厳しい状況となりました。

このような経営環境の中、当期においては、「雪印メグミルクグループ中期経営計画（平成 21 年度～平成 26 年度）」に掲げた「乳飲料」「ヨーグルト」「デザート」「ナチュラルチーズ」の 4 つのカテゴリーにおける「カテゴリー No.1 戦略」を強力に推進するため、新商品の拡売および商品ブランドの強化に取り組みました。

その結果、連結ベースでの売上高は、5,229 億円（前期比 102.7%）、営業利益は、150 億円（前期比 95.2%）となり、増収減益となりました。セグメント別の営業利益では、原料乳価格の値上げの影響などにより乳製品セグメントで前期を下回りました。飲料・デザート類セグメントでは、市場競争が一段と厳しく競争費用の増加で利益を圧迫いたしました。ヨーグルトの市場が伸長する中でプレーンヨーグルトの生産能力増強の効果が寄与し前期並みとなりました。また、飼料・種苗セグメントでは、牧草・飼料作物種子の販売増加が寄与し前期を上回り、その他セグメントは前期を下回りました。

「カテゴリー No.1 戦略」においては、デザートが前期を下回ったものの、乳飲料、ヨーグルト、ナチュラルチーズの売上高は、前期を上回りました。

戦略設備投資については、海老名工場における関東地区基幹工場としての第 1 期生産体制整備と「ナチュレ 恵 megumi」の生産能力増強、および大樹工場における「雪印北海道 100 さけるチーズ」の生産能力増強を完了しております。また、茨城県稲敷郡阿見町の乳製品統合工場の建設は、既に着工し、平成 26

年度下期の操業開始を予定しており、事業強化に向けて生産基盤の構築を進めております。

よつ葉乳業グループとの共同取組については、生産・物流・資材調達の3部門を軸に、既存の枠組みを超えた協力体制の構築に向けて検討を進めております。

協同乳業グループとの業務提携については、生産・物流・資材調達・営業の4部門を軸に、協力体制構築の検討を進め、関係をより緊密なものにするために資本・業務提携の合意に至り、協同乳業株式会社の普通株式発行済株式総数の20.15%にあたる約200万株を取得しました。

これまでに生産物流体制整備や成長戦略投資など800億円の戦略設備投資は、実施段階に入っており、他社との連携の取組み、インドネシアにおけるプロセスチーズ事業の展開など将来に向けた様々な施策に取り組んでまいりました。

厳しい経営環境は、今後も続く事が予測されますが、変化する環境に適切に対応し、今まで取り組んできた施策を「実行」に移していくことで、中期経営計画取組みの成果を確実に創出してまいります。また、継続的な成長を目指すために、早期に次期中期経営計画の検討を開始いたします。

引き続き、役職員一同、コンプライアンスと品質管理の徹底を図り、CSR経営を積極的に推進してまいります。

今後とも、これまでと変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

以 上